

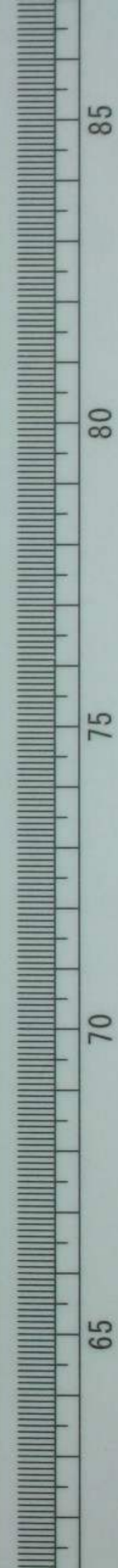
MODERN Gray Scale LICENSED PRODUCT

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



小児養育の心得 二部合冊
芥子園之絵入廣告本

西垣文庫
文庫10
6503



文庫10
6503

小兒養育の心得 脾肝藥玉圓功能書

西垣大傳



○人身の患ひい病より甚しければ一病あれば一生と全ふ
する能はば健康ありとさき物事の業不堪え其功と達るま
あつた人々生れつきの強弱ありや雖も凡健康の原は其身
の養生あり蓋し身體の養生は氣血の循行と食物の消化と
に注意すると以て第一といふ抑斃家も製する脾肝藥玉圓の脾
胃と健りありて食物の消化と加勢し腹中も滞る汚物と去て
氣血とよく循行し鬱氣と散れしと精神と養ふの功あり故に
常にお氣とあまげ耐氣のうす人或は病後産後等の肥え兼る
人又或はさしたる病気の有らばたれども何やかく氣を養ふや

うよして飲食味なく物夏不倦やとくして勉強の勞不堪え難
 人等ハ暫く此藥と持藥として連服をせし其氣力以養ひ其
 鬱と散し其精神として爽快なる志む或ハ又右等ハ原因して
 發せざる病症歟とせし其病ハ何病なるハ問ふは是等ハ原
 因して發せざる病ハ此脾肝藥玉圓と用ゆれば何れも其治功
 試奏する夏神の如し故ハ此藥の至る功能廣し雖も之と用
 りて適然其功と得べき病症の概略と擧げ諸君ハ告ぐ
 ○此脾肝藥玉圓ハ之と用ゆる方の歳ハ應ひ少くハ加減の有
 りれば何歳の方ハ用ゆるかと所使の方に必と告給ひられ
 ○冊中ハ画と加ふるハ画ハ要するハあらば婦童或ハ病人の閱
 る心と轉し其勞倦と慰めんが為なり

友生鈴木氏來訪而云
 翁今矍鑠猶容貌童顏
 光澤聲音壯大實可謂
 地仙長遺其仙容以可
 願此書與賞諭之餘直
 執筆

石田鼎貫翁
 九十五歳肖像
 百年壽寓



○此書の人々の養生の心得と徳一葉家数業愛顧の諸君に
無代價にて里ざら物なる故購求依託の人等兼價の外は若し
此書の代價何程とらふ人ありとも必ず取合給ふべし

○脾肝薬玉圓 主治功能

○消食器の衰弱

脾胃の弱りとらふ

け病の偶大人あもつれども別て小兒乳をなれの時よは食
の帯にさぎ氣ぶしやうしして煎豆かき餅を食好む飽
る多きく重なり大便をさうより腹の如く脹る死
体ハ後鬼の如く小瘳世衰ふ之と人といかんといふ或は又重
かろざるも生果かぶ去かりけせんことを好むと答ひ

止ざるなり或は健康にて外は病あり只口のまわり鼻の下赤
くなれるあり何きも皆世人虫病或はひめの病といひ考
の病は秋葉と用ゆれば奇妙な治を総てひめの弱き人々
考よ之と用ゆればひめと健じて右考の病をさうしむ

○萎黄病

氣のふさぐ病といふ

娘の子十四又やこむり月の水初めてる後お氣ふしやうは
して只何となく氣むつりしく外は出る好まぬ人々を考
おあるべきとあんどる病なり此の症は秋葉と用ひて大い
は又あく病とて男女にかつらば大人もして人々は小兒の
ひかんと氣ふしやうにしてさかく食と食う腹脹てきて
は足程さびる病ありけ病は秋葉用ひてし

○小兒下痢

こどもこどものこども下下痢痢 小兒大便の色青く或は赤く或は白く或はねどろりたるもの
うらの通じたるもの

○酸敗液

まろみんとのか
むねと痛みをりく酸と水と吐くもの

○經行不調

婦人月の水有らうなうつらう常おそらりぬふり
但しは業の滞りぬぐらうせむも妊娠の流るる瘕あるも
月満るまで能く保つてむるなり

○白帶下

あつ血とのか
婦人月の水は白くは交りておるものなり

○喜斯的兒

血のこら痛とのか
婦人のまづひて人目よりたの痛をやうやも見之は常に
氣おやうやうして心をもどく総ての物まづういし心ひか
がら何事もよく氣がはましく人のまゝ事なすいふに
人の心死も自かより強たく思ひつま言ある道ハ呼吸難便
して歩けり子肩首すらく凝りのほせ程々故さまひをうら
臥せも何れは痛を更あへてとてかゝ家内をたうらふあ
として居るゆらぐ痛はよ

○依刺昆的兒

あやまひとのか
男子自分の耐は叶をぬ氣とつひ心苦して體のまもを
かるやうふなり物更念は念を入まても氣がすまじた程は

もや死変と只一途よあひはめきよもまぬると考ふく
思ひすご一夜の病ても種々の変と名ひ出して孫らまは人
は違ふると嬌ひ教をよ藉りて考ふとて居る病ふり

○佝僂病

せむ一はこむひといふ

脊骨の骨せんぐよ曲む病なりは薬を用ゆむ既よ曲
たる骨の伸びぬたをなごけと止むと故に早く用る者
大等の病なり時速く此脾肝薬玉圓を用ひむく寿妙よ治せ

○契家よ製する兼右脾肝薬玉圓の考はたよ揚る兼なり

官消虫丸
許健胃丸
解凝丸

大人小児む一切の妙薬
おをほきし又いどり目の妙薬
あるとよき治毒汁の良劑

○養生心得之部

産婦の心得

○婦人懐妊する時の殊に養生と大切は情むべし考は此体の
努力と苦みあるは適宜の滋養物と食の程は運動をなして
房室と情むべし婦人の見とまむと或哲諭へて本家も考
と知せと同日更して幾許の縁り材とかけ興あるは依て本家
いぬままだけ耗りかちちあり故に前より考むと用むと縁
と殖し財と蓄へるは盛人の家と考かて本家も又衰
えざるを考むと婦人見とまむと同日懐妊中滋養の食と用
ひ充か此体と苦みあるは本家も考むも健うおして考むる小児も又
健うなりといはる程と考むて懐妊中養生法考むる考むる

○出産の際心得へとい生見生母の俾と豎る時の中を
たる穢毒初音と擧るふ意ひ咽よ入るまらむ其穢毒ハ穢
と重も種くま交とて成年の後までも結病の原因とある物あり
故よ分娩の時生れ見の初色とよるまでも指先は紋のきれとせ
はの中と成だけと拭ひ取べし備生見生母に乳とははく
まては大便よく始の如くと通ど人形は力ニコ、とも力ニバ
ともいふ是生母母の胎肉と受ける穢毒をう故は胎を充
かこ通どるがより乳とつられば力ニコ、通ど止むりのをう乳
つらるるま急ぐべからば乳は生見生母とより二至夜とよる後初
興ゆると通なると是生母の乳四十八時間とよるればはくぬも
のあきべなり其間の乳と興へども生見は害あるまをう而

て生見は乳とははくる生母の乳とらう乳と留生見は興のまは
下痢るとしてまき娘ひ興へる人きし是たひある穢りをう生母
の乳は生見其母の胎肉と受ける穢毒と泄して掃除とる病
お神明の助けとて塩分とのおと餘計あり生見之と飲ば自ら通
宜は泄らまむる天穢貴童の業乳をう故おもめく之と捨べぬ
らどまま直は興へて害あるまをう程よく泄りて後止むも
のをうむねて天然は任せ懐るべりうと

小児保育の心得

○人の小児の臨苦胡とよくせざれば遂に一生の害と生むるま
り小児と養育するは其食物の母或は乳母の乳汁はかくりの
なく殊は赤子と養育するが如きい又他物の之は易ゆべし物を

一 然きども其母或は乳母は留飲有り或は熱養一々の穢毒を
ちる人の乳は決して其のべらばに熱きばとて齒の生ざるまで
乳の介渡りて他の食物と與べらば生まてころ八九月乃
後小つらう齒と生ず物と喰ふ事を知るおるらば粥のわら
う乳やと與く粥と食物と喰ひ習はせむべし

○ 而て衣敷或は綿などして乾熱と常に包こまらばは宜しから
ば ○ 湿氣のふれ清潔温暖なるおの森とせよ或は乳と飲ませ
或は抱きそ少しづつ運動させ適宜とせむべし ○ 強て葡萄とす
べらば ○ 寒暖の度おく或は不潔の空氣は存らむむるお依
て急症と發する事ありむねぞ

○ 小兒二歳より五六歳あるまで其の殊に食物の過だざるやう

其分量おむとつけ宜く清潔しと程に暖暖あるおは抱せむ
其此体と洗ひ清潔とせむ ○ 小兒の胎のりまご乳と吞むと其
次牙わらうら食物と少くづと齒化して其漸く喰あむ
あむべし ○ 小兒の胎のりまご乳と吞むと其初
おも幼穢とまへぬやうして仁愛の理又正法のありに慣せむべ
し ○ 夏はぬいぬいせむべし ○ 二歳より五六歳の間に衣履と着
して其此と強壯とせむ ○ 暑お熱き時羊糞など多き其え
或は生地濃きおある物とまも熱愛お但せ漫ら其ゆる胎に健康
と害と ○ 小兒其心と耐むるおとかく唯食物と嗜むりのあり而
て又其母の熱愛の心より其心と耐めんと思むは但して後其
へ穢らば知らず其適量とせむ ○ 病と發する多しむべし

小児養育の心得
 かくのどく肥満一癆瘵の
 うきふかきの子をわづら
 ぬらふかゝるひんやん
 なるのまじへんあり
 おんりのまじへんあり
 虫のまじへんあり
 虫のまじへんあり

ひんりの虫い乳
 虫い乳のまじへんあり
 虫い乳のまじへんあり



心齋より
 心齋より
 心齋より

せうん病
 せうん病
 せうん病



脾胃養生の心得

○人々病は脾胃の弱りといふあり是其体中消食器の弱りといふ
其消食器といふは腹部にありて人々日々食する食物と受て而して之
を消化して其食此と消化し居る妙なるある作用の至大切の機關は
して人々胃囊といふ是なりけり胃囊は壁の波ゴムにて作らじゴ
ム笛の囊の如き物にて居る伸縮する物を其食物と受るる食物
のけり胃囊中に入る時に入るお急い漸く伸びる膨らみ而して其食物
の消化し終るお急い亦復漸く縮むるのなり而して其縮むる力を
て其縮むる力も即前にお急い食物と消化を妙なる作用の中幾分
る必急の部をなす

○諸君も飲食するお急いけり胃囊の伸るお急い縮むお急い

多し人々各々常々慣るお急い定限なく情べりたりるもの
なり或は食物と収受る時ハ収受るる急い漸く伸縮して常々こ
慣るお急い定限お急い及ぶ時ハ満足と覚ゆるものあり而して又其操圖の
作用して其胃囊の中より食物漸く消化して終る時ハ減るる
急い漸く収縮して居るお急い定限お急い及びて其収縮力に對し
べき支障物の力乏くある時ハ何となく後お便りあると覚えへる又
資食と催促する是常なり而してお急いお急いお急いお急いお急い
り食と受て伸るお急いお急いお急いお急いお急いお急いお急いお急い
け時又敢て食すを敢て伸縮し食すを敢て伸縮し食すを敢て伸縮し
して止ざれば其胃囊の伸るお急いお急いお急いお急いお急いお急い
弛る食物消化作用と急るなり此急いお急いお急いお急いお急いお急い

の有りぬ故に其偶なる少頃して後自然に漸く緩やうに収縮のなり然りと雖も一回伸るるは其時其収縮力も亦復る定限の所及たば未達して其収縮力を乏しく人肉は食の之にあらば其後食に對する力の弱きは固て或は飢たる如く是又消化を欲するを主とするなり此時食を以て耐えしむる須更おして収縮力の又元を復るものなり或は少くは食して凌げ一日或は二日ありて漸くお前と常は慢る定限は復ると雖も若し遅てけ時を延ぶるは但せ慢るを食して止むるを竟は其収縮力と失ひ食物消化を滞りて腐敗或は之は虫を生ず或は病と發せ

○經驗より由て之と証し人々日毎に食するは常に慢る所の量あり

度なり然るに偶々夜を痛むるは及び常食の介お又一食を喫する変わり而て其翌朝及び腹の中は其一食の餘計は満ちた覺へど反て是より後の耗するや久し食と慢るをの考よりい急ぐものなり是他は何れに全く胃囊の伸るは常は慢る定限より下るは須更収縮力お乏しく肉より其食を對ゆる力の弱きを以てなり

○人常は脾胃の弱りこの故に収縮力の弱りたる故に大人ありて形症と病む人稀なり小児は胃囊の伸るは且軟弱にして其力又弱きゆへに病は罹る殊に多し其重症と脾疳との如き○藥家は製する脾肝藥玉圓は食物消化の作用を加勢しけ収縮力とよく補ふと雖も其飲食を減して其収縮力と乏しく

さて消化室に食物を食して漸く懐ふ其力成らずに消化作用
と誘ふべきを懐けて其養生とよくせざれば其病ありて此業と
用ゆるも其功を得かじ○殊に赤子の此消化器は形容は精く
備るとも未だ其用と作らざる故に天の赤子と育はる
は其消化と母は備り異なる乳を以てす而て後小兒とある
不及先漸く歯と作り而て其消化作用の漸く充實なる
漸く母は備る乳と廢而て身体の結構と大にする材料のあり
漸くは食物と要るを換るものなり然るも小兒幼童の際に
前小兒如く其消化力未だ甚弱に故に人之と攝育する小兒
天然の漸く懐ふ進む作用の道程とんば食物の消化やと死
軟なるに食物とあるを以て或は食と與へ乳と與へ而て常は其
量小むと注漸く小其胃囊の収縮力と導くべきを懐けて消化を
さきの差程でその分量とるせば消化力堪えたりして食物滞
りて腐敗ある原因して百種の病と發せ戒慎するべしんや

虫病養生の心得

○小兒病あり其病の何病なる哉問ふ人々概て是と虫と
いふ故に小兒の虫との病といふの代終の如く熱れども
虫の病とするの最も小兒多しといふをたがふ大人も亦多し小兒
らば又小兒の病あるは虫に限るのみならず人或は他の病の爲に虫と
生ずるあり或は又虫の爲に生ぜざる病あり其原因異なるを虫
も又異あり故に其虫は殺殺有と雖も其虫と生ぜざる小兒は原因
するの最も多き故に胃腸にて虫の多く蛔虫なり是を食く

右より消化器の消化力弱りより食物の消化鈍くして腐敗停滞
て熱と發し生熱の者も腐敗停滞食物の熱る小因り生ぜざる虫
の多き所以ありて例は芥涌満より腐敗物むせて虫と生ぜざる
如きものなり○而てけ虫と生ぜざるの殊小兒又多た小兒の
既わいふ如くしまご食物消化力の弱きふとかく其母一時の愛ふ
溺き小兒の嗜欲よ之と制するよ思ひど少頃を過ぎと耐めん為乎
若くは乳をすれの際黄一途お乳お料るむより滋味は飽しめ
ん更ど物を食物とるる漸くの分量と顧るの違あはれして
小兒の嗜は任せ飲食の適量と張りあは消化器の消化力をせ
ろへしる小因るの多き所以なり
○而て其虫の多き蚯蚓の如き虫や或い細少蛆の如き虫多し

此二種とも其色白なり又少く赤と兼て桃色なるあり
○病人其白色の虫と生ぜざる時の食と貪り甘き物と好む而
て或は狗もく嘔吐有て或は口中の中よむしづきり或は折後
といふ或は或は寝る寐て居ても卒急お死あぐる或はビクくと勃
き或は時と定めれば同歌のある熱と發するなり或は生れ思む
よらざる種々の發症とありのをを
○病人其桃色の虫と生ぜざる時の甘き物と好む或は辛辣物或
好むあり或は食と欲ざるなり而て時として種々異常の發症と
らるる或は或は其熱もく可きの大熱と發するあり時又人々
得て之と疫熱と或は之と虫疫といふ或は又其熱の輕ふさむ
る更有と見て虫をとりてのあり種々の虫を時と定めればして

於小熱と發し、熱のさむる所の是は疫よりなるものなり
 けみんと後中おけ、桃色の虫は生ぜざるに因るものなり

○此桃色の虫の甚く懼るべし、この為虫ありて白と虫より其勢

力にて強し人小害とるる甚く、むねにて速く除くれば人

命を奪ふあり故に諸君参考の爲け虫と生ぜざる所の容体と

告んふ○或の折々頓又約隔へ牽り○或の折々約へさし込○

或の頓又甲乙と痛め乙丙とつらら其虫と定めば○或の腕と牽

り是とはり摺とつり○或の擊て將時伸ざるもつり○或の一時

大に食と食り而て後二日或の三日も食と絶れ更あり○或

の其虫しれい心神をさるざらして獨り言といふあり、瘡言いふ

て此体は是動客の如く小異者更とあり、故に疑族驚り

得つて之と瘡をさるざら、或の之と糞程の魅せるものごとし、瘡を

医し治せしと東奔西走神を禱らつと者も是少く或の一日若

く三日日よして熱のえれば一時自然に治る更あるものなり而して日

とるとは或の又熱お發り或の亦頓又治る屢々其病は間歇の有

は是癩程より糞程の魅せるものあり、後中と必ずけ虫と

生じて其虫の病のとらるものなり、今も糞程の魅せるもの

ふいふか、け虫お痛む人多かるべし、而てけ虫の他種をさか

の具者不測の變症とあり、是を更なり注意せねばを治と得る

る妙く、

○右の甲乙の容体にて或の其症の熱のえれば、病人の眼

ふむと注ぐ、白玉の如き色青く、黒玉とるごとし、て若あり

に目ありはりより或の時ニキヨロくと空目と云ひ或の人と梅
結中乾小懼るしく或は左右と視て眼づらむ定まらば而て又鼻の
上兩眼の間ニ或は堅又或は横ニ青をば見む其のなり是等と
照し今せそく冬考まぐ

○右ニのや甲乙の症有て是虫の致と痛むらばやと較ふあは
速く藥家小聚する消虫丸と用ひたまへ其虫と除去し其功妙
なり而て表或の虫ありざるも其病は害あるなり其症ども
仍其既ニ生ぜざる虫と去るまでありて他は又功有らば反と
又再び生虫と生ぜざるをすしとせし生虫と生ぜざる原因の相と致
すべし其の藥家小聚する脾肝藥玉圓と用ひたまへ食物消化力
と補ひ修る腐敗物と掃き其虫と生ぜざる原因と致と致はぐ

然もども仍ハ又生既ニ生ぜざる虫と除くかハ功少なり故ニ
其虫と去て其原因と致ともハ消虫丸と脾肝藥玉圓との二藥
と兼用ひたまへ

大人衛生の心得

○凡て人の十六七歳より四十歳の頃までの強壯の年數ありて
健康あるの期ありけ時は心ほべきの飲食の節度を保ちざる
やうに淫ま又勉強運動と必ぶ遠なふとべし四十歳より上は元氣
此体稍ゆく元氣は赴くがゆへは殊に食物は氣をつけし身
の滋養となる消化やせれた物と喰ふやうにむけ飯初めも消化
しき物の喰ふやうにせよ

○食量の毎日其時刻と違へぬやうにとし

○忙ぐ〜犯人おても合意の陰の影と落〜うあよく儲化〜
 て徐かよ吞とあむべ〜
 ○食物の何おても後つたの喰ひての痛いの原とる物あむべ
 常おモウ一をの飲いとあおあで早く着と下はあ喰ひるあやう
 法あぐ様は向あ毎あけすとあむあやうあむべ〜
 ○烈〜此俵と殺ひむ思と苦ひる後ハ三十分より一時
 までの時間と経るああ〜それの喫飯さぐりさむと而て是時間
 の笑ひ族〜あどと〜てさむべ〜
 ○少〜おてもむあ〜此時ハ書見書読ハよろ〜か〜は婦人
 の針業もあ〜あ〜か〜は且序更と懐〜むべ〜
 ○心悪〜時ハ運動さ〜適度の運動ハ常は欠〜むべ〜



る 俵 四 郎

食物の心得

○食物の第一は飯の軟弱なるがよし ○菓の色くまを去せて食ぶるよし ○都て一ツ物より多く喰ふはよろしからん ○毎日同じ物より宜く喰ふはよろしからん ○香の物の消化よりしからん物もよく食へば至る消化せしめものなり ○味噌汁の胃中お滞り物よりたれ氣おれたを多くいしよりしからん ○食後の時は総て汁の類又ハ湯菜類等と多く飲ば食物の消化進くしよりしからん ○酒ハ其人の病よりして少く食ふは薬あるより人お甚くも多し元ハ飲め方ハ茶をすべし

○大人小児ともは病ある時殊にむねむるは食物ハ

- | | | | | |
|------|---------|------|-------|------|
| ○油揚げ | ○テンプラの類 | ○だんご | ○生の昆布 | ○みそ汁 |
| ○かじ餅 | ○きんぎょ餅類 | ○牡丹餅 | ○たまごけ | ○から草 |
| ○のり | ○豆もへちま類 | ○うどん | ○そば | ○子いも |
| ○油漬 | ○魚のるい | ○こうふ | ○かぢあわ | ○そらめ |
| ○脊の青 | ○魚の類 | ○乾魚類 | ○こんあわ | ○わかめ |
- 其他きんぎょ餅の類又ハ初物として時あるは餅しき物右等の類ハ仮令常食ハ格別害なれども病人おまごよりしからん故ハ病ある時は喰ふはざるがよろし

運動の心得

○運動ハ此体の關節と運轉ハ筋ハ骨屋伸ハ血液と運轉ハ且精神と爽快ありしむるものなりて人ハ養生ハ必す是

久く歩くは其の弊を多し其運動も程よくせざればなる
 も又よろしからず或は小児あまのほきざれば運動のあふるる害と
 生ぜざるあり或は愚鈍人の強壯の人の如く大に運動する時
 の害あり故に病後の運動のあふるるに医は同かざる。○而て運
 動と云は其此律と少くして反て左右の手足を振足教九七二五
 或は又百程運が同歩行而て又左右の手足振りの級後少く
 脊の方より歩く又足の級三又百運が同歩行をより而て
 其運動するふむはむべし
 第一運動中窮乏する衣履とあるべし
 第二運動中疲乏と耐忍して程止ざる時其害あり故に不快
 と覺ゆる時其は又休息べし



為石田君囑万俵 西野

第三運動の後必ず疲乏の候るまで静息べし

第四運動も亦劇しく力を用ふるに始の候やうにして漸

次は強かるべし

第五運動も由て血液の循環と進運して飲食の消化と進む
るが故に運動中及び其後の殊に新鮮な氣中静息

べし

第六運動の後必ず飲食をせらるるに又食後必ず運動せらるる

は消化化小害あるべしなり

第七運動中及び其後の此体より汗を流さるるやう注意せよ

○始め慣らざる間若他のいふる如く何ともしむるに目
迫儀の睡室のよれた樹木のあたる所を列りて遠く道遠

とみせり或は遠く歩は神社あり日毎朝夕歩せらるる

妙なり

○此種の健康を保つべし養生上の要は運動の事のみならず

べし人々或は其の病或はうつらみん或は婦人血の道が痛り

如きの類は是皆其病の原に於て運動と欠かすべし血液の循環

正しければ神丸内は壓塞して運動せざる由因りのなり試は其

病人と見らるる事耕種力作等と業とする人は有るを以て稀に

して多かり皆大家の深き水まで歩み深味は飽く此種と容易

に勤むるをまじく日々書見は其目と送る人を或は朝夕快落は

對ひ善盤と擇て夕月空書をなると人な或は又婦人は多し蓋

婦人の性愛は深き水まで歩み深味は飽く此種と容易に勤むるを

但せぬ或の内憂と嘗て今日の事務は本は道遠を欲も其服
とゆぐぬよん思の發動するをすくも骨痛しして血のな骨
とのめてとかく神經は圓る症と痛む是皆は運動は欠の玉以
る故は婦人おても農工商と同く其業を男と煙は働か或
常は外出の業を授け居る人は或の散歩の自由も心のまわ
ゆらぐぬと婦人は玉ては是等の病は罹る人ある甚敷し是を
以て之を觀るべし運動の常は欠くべしと云ふものなり然り
と云ふは運動と欠既はゆらぐ症と痛むは及んで人々勸
奨をせしも病人は是を運動するは好まざ其勸めを用も然り
く思ひきくは神骨結して漸く小骨痛と重ぬるものなり
是等の病人は製家の脾肝薬玉圓と用ひたまへば其血液
と循環し骨骨氣と散し初めざる小運動致むとすべし神
気爽快なりしむる度矣は神の如たの切あり依て之を用ひ
たまふ人々の便宜は供る為め次は製家製業の取次を掲
て愛顧諸君と告

時、明治十一年二月之と改定

石田勝信謹而誌

脾肝薬玉圓功能書終

京都五條橋東貳町目

本舗 脾肝薬玉圓 營業人 石田勝秀謹製

所弘

丹波 東京 大阪

各地

賣弘取次所
龜岡在吉田村
京橋區加賀町九番地
四ッ橋東北詰

西田 石田 岡本

莊兵衛 運平 喜平

京都

三條通堺町東入養命膏本舖
今出川通堀川舟橋西詰

平井

祐一喜

同

三條通新京極角
油小路通佛光寺下九奇應丸本舖

大寄

清三郎

同

四條通室町東入
兩國村松町壯眼水本舖

船川

與兵衛

東

兩國村松町壯眼水本舖
小網町二丁目

岩浪

長藏

同

池之端仲町寶丹本舖
兩國廣小路米沢町五藏日本舖

守田

治兵衛

同

日本橋區上槇町万金膏本舖
日本橋區瀬戸物町

大木

榮次郎

同

牛込區上宮比町
任原郡大森南原町

安川

金太郎

同

堂嶋蜷橋南詰

高橋

新平助

同

四ッ橋東南詰
天滿堀川橋東詰東入

本林

平三郎

土佐國

高知本丁一丁目
和歌山丸之内拾番町七番地

佐藤

安右衛門

紀伊國

熊野新宮元鑑治町
日高郡三尾村

津越

覺右衛門

同

御坊村

小竹

清兵衛

淡路國

須本内通り町
德島西新町三丁目

天野

藤兵衛

同

名東郡出來島町

前田

辛平

讚岐國

丸龜富屋町
字和郡卯之町

和氣

善照

同

多摩郡川ノ江新町下

村地

大市郎

同

喜多郡新屋敷

三井

昌道

同

吉田本町三丁目

合田

仁三郎

同

宇摩郡三島東町

田井

三郎

但馬國 同 因幡國 石見國 播磨國 同 同 同 同 同 同 同 同 同 攝津國 美作國 同 備前國 備後國 周防國 長門國

出石村木町 豐岡滋茂町 鳥取二階町二丁目 邑知郡矢上村 多可郡西脇村 美囊郡三木福井町 姫路平野町 龍野下町橋西詰 宍粟郡山崎町 揖東郡與濱村 飾東郡白濱村 兵庫湊西出町 津山元魚町 英田郡倉敷村 児島郡郡村 尾之町 三田尻本町 下之関觀音寺

石井田 太數平 文次郎 禎次郎 茂兵衛 宗十郎 萬次郎 重助 德兵衛 穆彦 庫次郎 長次郎 忠郎 平十郎 鹿藏郎 半兵衛 弥兵衛 岡田 永積 安兵衛

同 同 丹波國 同 同 同 丹波國 越後國 越中國 能登國 同 同 同 越前國 同 若狹國 同 同

西宇和郡八幡湊本町百 北宇和郡岩松村 遠敷郡上竹原村 三方郡早瀬浦 敦賀神樂町 武生櫻町 勝山袋町 南條郡武生旭町 宇出津新町 射水郡高岡源平坂屋町 柏寄納屋町 福知山下柳町 栢原中柳町 篠山川原中柳町 綾部川南西原町 宮津川南西原町 舞鶴寺内町 峯山浪花町

菊池 五平 谷三郎 傳兵衛 彦右衛門 市右衛門 喜右衛門 五郎兵衛 仙次郎 忠平 市三郎 作太郎 伊兵衛 甚三郎 久之助 德右衛門 磯五郎 上本島 麻田 吉田 藤本 西山下 森橋 高橋 車谷 西沢 龜谷 島田 山本 素谷 三宅 田中 尾上 菊池

和泉國 同 大和國 山城國 日向國 肥後國 同 同 同 同 同 同 同 肥前國 同 同 同 同 同

竹出町 北海辺郡白井町 全郡全 大分郡大分町 長壽東濱町 平戸佐世保村 唐津刀 島原橋口町 佐賀白山町 平戸舊城下町 彼杵早岐漆立町 熊本坪井建町 飽肥本 那加郡楠原村元町 伏見下板橋志丁目 十市郡田原本村 奈良勝南院町 堺區甲斐町山口

小甚 古田 倉吉 白井 白井 出中 西川 古館 古藤 佐藤 大串 富田 多賀 清田 小玉 小玉 海老池 大西 赤松 柴田 喜十郎 甚左衛門 三左衛門 倉吉 吉太 孫四郎 九平 龜次郎 良吉 啓助 孫兵衛 棋七郎 廣八郎 亥三郎 龜三郎 太兵衛 平一郎 赤松 柴田

同 同 同 豐後國 同 同 同 同 同 同 豐前國 同 同 同 同 同 筑前國 同 同

中津市 佐伯町 鶴崎町 府內萩原高町 下毛郡中津豐後町 字佐郡高並村 築城郡推田村 中津庁端町 小倉船頭町 小倉在大橋町東横町 志摩郡初村 博多新川端町 直方屋瀨町 木下新川端町 博多下新川端町 福岡大西山口 厚狹郡小野村 萩東田町

木本 神谷 田中 利光 古田 神出 搜本 古野 水田 山口 山原 萩原 岩寄 松井 松本 三苦 松田 岩崎 佐伯 勘兵衛 森次郎 清道 清相 卯勇 五兵衛 利兵衛 與兵衛 茂七 勝之助 啓次郎 嘉三郎 松太郎 久米藏

伊賀國

上野愛宕町

津敷地頭領町

河壽里中町

山田久留町

四日市在千艸村

六軒在推現前村

名古屋區梅川町

鳴海在沓掛大久傳村

春日井郡小牧村

名古屋長者丁六丁目

知多郡龜崎村

東春日井郡瀬戸村

名古屋元前津春日町

西春日井郡清洲村

尚壽郡連尺町

備豆郡西尾町

碧海郡榑尾村

西加茂郡梅坪村

宝飯郡豐川村

全郡下中島村

清水

岡野五三郎

増井久之助

大井良平

福間守太郎

在間定三郎

驚尾鐵兵衛

林野清兵衛

中野信次郎

穗積儀平

推浦儀平

山本儀平

佐久間儀平

淺井長次郎

河村清長

岩間平兵衛

永藤次郎

齋藤平兵衛

伊賀國

伊勢國

尾張國

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

西梨郡稻村日遠寺

中巨摩郡鏡中條村

沼津宿

島田郡西目町

大宮西町

濱松郡森町

周智郡西坂町

見附郡足助村

東加茂郡足助村

南設樂郡新城村西新町

八名郡豐津村

西加茂郡寺部村

東加茂郡九久平村

全郡下中島村

碧海郡渡刈村

全郡

宝飯郡豐川村

西加茂郡梅坪村

西梨郡稻村日遠寺

中巨摩郡鏡中條村

沼津宿

相摸國
同
武藏國
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
下總國
同
同
常陸國
同
同

大住郡伊勢原村
同郡曾屋村
大住郡神戶村
多摩郡布田村
埼玉郡越谷村
高麗郡平沢村
南多摩郡金子馬籠町
橫濱相生町六丁目
南豊島郡内藤新宿下自

北足立郡三室村
相馬郡高野村
同郡柴寄村
豊岡郡水海道
埴生郡大竹村
真壁郡下野村
同郡吉田村
信田郡江戸岸村

近江國
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
美濃國
同
同
同
同
同
同
同
同

高宮宮前町
長濱宮前町
神寄郡新宮村
日野鍛冶町
彦根土橋町
大津町字上京町
愛知郡上岸本村
八幡眞屋町中筋上元
愛知郡上枝町
彦根上河原町
岐阜卓切通村
養老老藪田邑
郡上八幡新町
可見郡御嶽中村
大垣中町
岐阜卓鞞屋町
大垣中町
中仙道中津川町

須藤原安五郎
梅原右馬吉郎
井出市兵衛
糟谷市三郎
木下半助
山中馬助
河口伊助
磯山孫兵衛

綱島武右衛門
油屋宇右衛門
須藤傳右衛門
秋山藤右衛門
加藤禎助
奧川漢三
尾美耕三
荒井德兵衛

馬場總三郎
若森彦三郎
荻野儀兵衛
町野庄七衛
家森喜三郎
森久右衛門
過山佐右衛門
福山茂七
野村靜次
森野淺十郎
金森佐右衛門
松永繁右衛門
水野伊兵衛
原野貫一
若林嘉十郎
龜林依平
山田喜平
間田吉右衛門

同 信濃國
 同 美濃國
 尾張國
 同
 大和國
 伊豫國
 岩代國
 後志國
 下總國
 三河國
 土佐國
 志摩國
 若狹國
 大坂市
 丹波國

南仲通三丁目
 下伊那郡飯田町
 諏訪郡諏訪村
 加茂郡八百津町
 丹羽郡稻置村
 丹羽郡岩倉
 吉野郡下市村本町
 宇和郡宇和島横新町
 大野郡永井村
 小樽港山之上町
 南相馬郡千賀村
 碧海郡堤村
 香美郡赤岡村本町
 英虞郡甲賀村
 小濱白鬚町
 心齊橋北詰塩町
 亀岡町字河原町

浅見銀三
 柴田正兵衛
 小林和吉
 山田太兵衛
 水野傳助
 大野幸太郎
 今西太助
 林屋常太郎
 白井俊伍郎
 阪下久兵衛
 伊沢八吉
 新實徳次郎
 近森鹿太郎
 小西庄太
 三宅嘉七郎
 山本勉堂
 茨木熊次郎

看板商標形

官許散和胸
 せなはめ茶
 本家
 京都五條橋東二丁目
 石田勝秀

○此茶といふは... (Vertical text describing the tea's quality and origin, mentioning '丹波' and '五條橋')
 ○たんせ... (Vertical text, possibly a brand name or address)
 ○一日... (Vertical text, likely a date or time-related note)

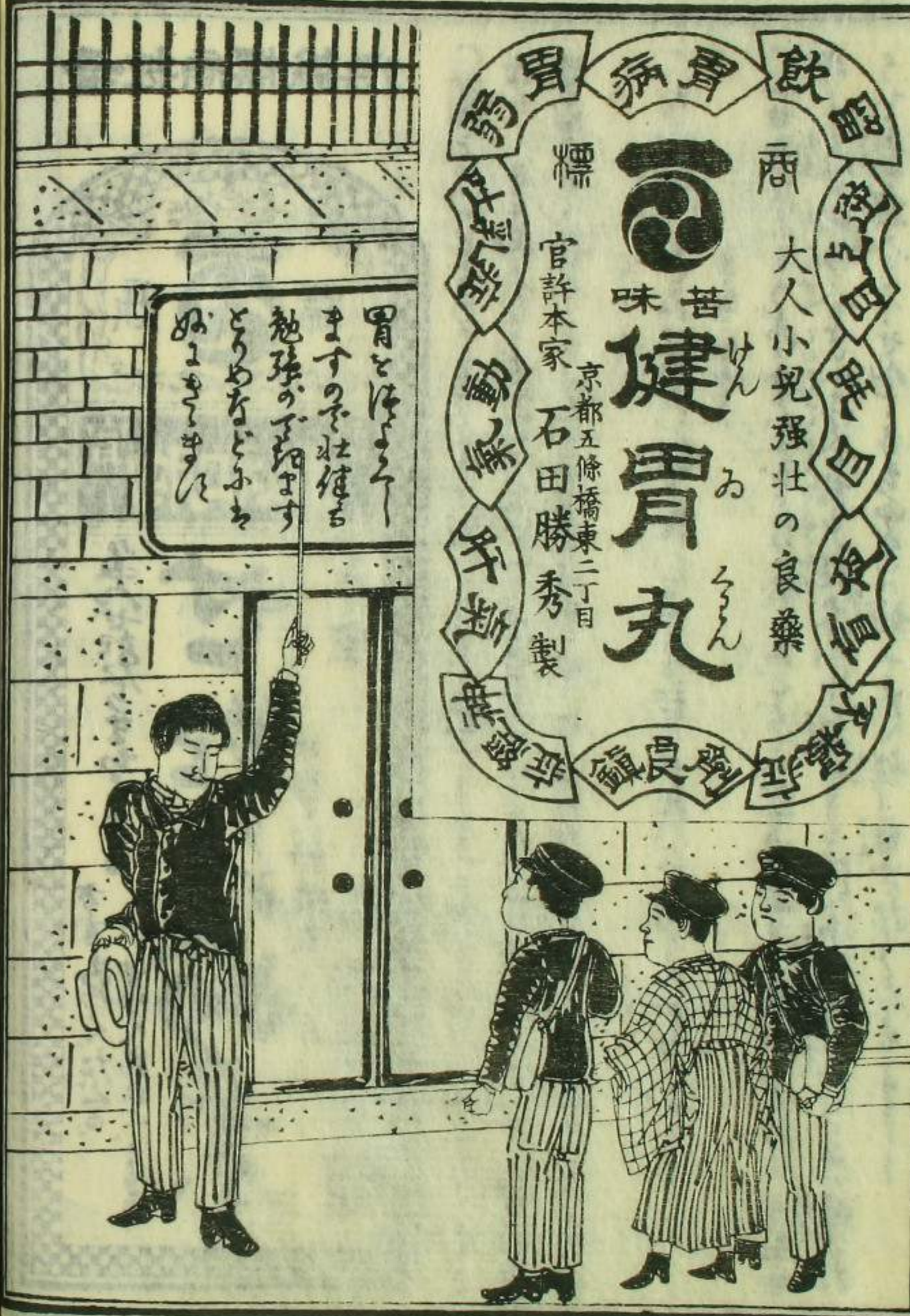
商標
百消虫丸
 大人小児驅虫の良劑
 官許本家 京都五條橋東二丁目 石田勝秀製



商標
百解凝丸
 胎毒下りの妙藥
 官許本家 京都五條橋東二丁目 石田勝秀製



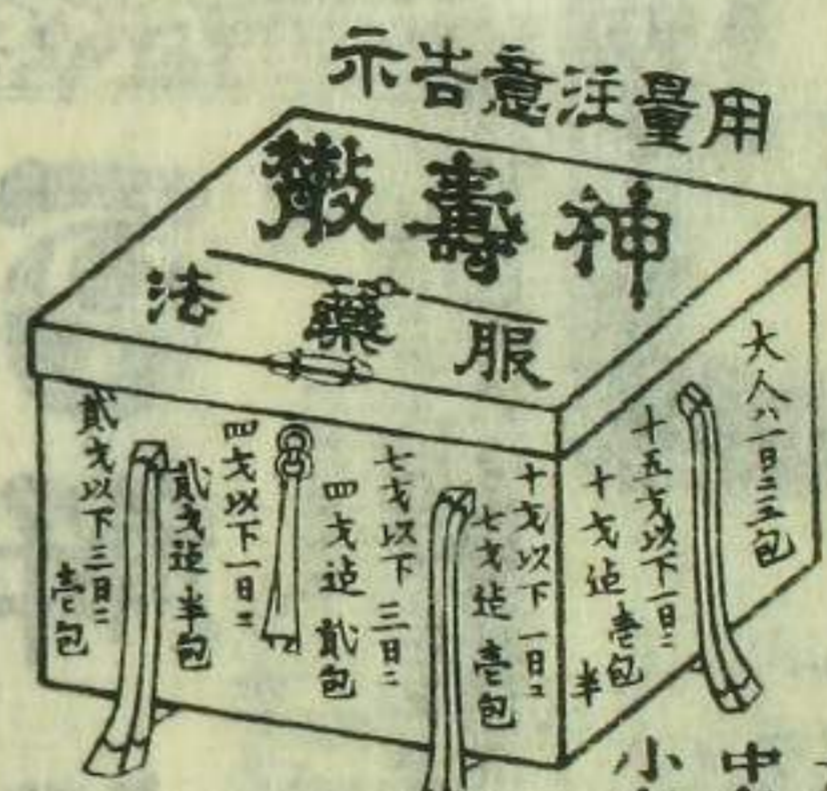
商標
百健胃丸
 味苦
 大人小児強壯の良藥
 官許本家 京都五條橋東二丁目 石田勝秀製





石田勝秀製子孫品中より我の徳を伝へたる
 高標認りし上り購求めんを乞ふ

○ 郵送料廿一服入逆金貳錢
 藥代郵稅共郵券代用ス



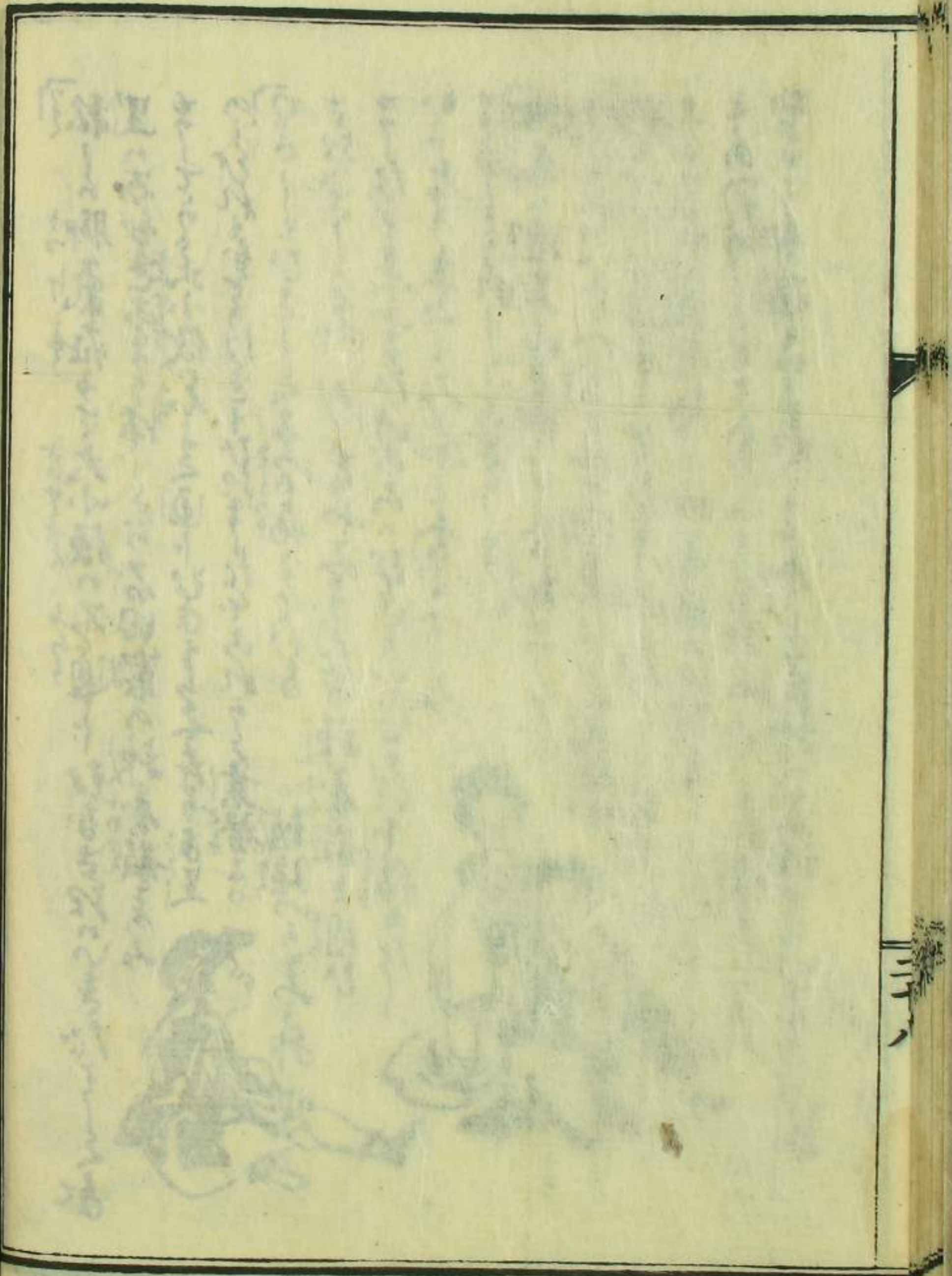
大包廿壹服入定價金卅五錢
 中包十四服入定價金廿五錢
 小包五服入定價金十錢
 御試驗には小包
 五服入を二日に
 御服用被成候得
 ば効能相著候也



私に脚氣症あり大小便不通下血ありいきたるに
 里の志多丸を服せり神壽散を服せり
 ましての大小便の通ずるに神壽散の功なり
 のしびれも重なるはきこひれたるやあれは業障なり
 けりしもひさしこもふ痛むてむか
 とはなすこもいれくちやみすたの神壽散を用ひ
 ましたるもふさむひはあらむもたまたまびやけりた
 かなりまきまきもやも合はすみ
 ちりしやれしやあざりま
 拙者近來胃弱を患ふたは
 合はれいたる合はれは物身たるは夫故
 神壽散を服せり入りし紙
 上の石田勝秀製神壽散の効能書に
 とのたれしことあらたもあらぬ
 おそり胃痛もやれしこと今日民神へ奉
 御



抑父萬貫の丹波國桑田郡穴川村小産而壯年より皇都小
なり家秘く脾胃藥王圓と製し日夜心カと及く遍く諸人
の病苦を救えんと志す夏年久し此脾胃藥王圓の功能ハ脾
胃と補ハ肝と志ハ心氣血と順ハ経腸の滯と制伏するの妙
劑ハ凡病諸症ありと云々内より發する病ハ五臓のうきより
生して五臓の毒ハ脾胃ふる故小輩ハ此良劑を服用すれば
病長持ちせず蓋し千病も癒して病ハ癒す其力を度大
なり既ハ此藥小卦之とすハ其重なるより救わんとすハ効
能ハ一舉で病癒す遠方ハ此藥とのても必一方の徳ハ病癒す
きふハ其病癒す其病癒す其病癒す其病癒す其病癒す



記を撰あつき良ありきくあつるあつるあつ用もちひごうあちまごめごめごみご功こう徳とくの有ありあらあずあとあ明あ甚あしあてあ用もちひごうあちまごめごめごみご功こう徳とくの有ありあらあずあとあ明あ甚あしあてあ
 して冊ふとふ貯ちりち周しゅうくく施しけけしし是これれおおれれくく此このの方かた劑じととししふふ人ひと日ひくく益えき無むきき
 なり改あらふふ御ご堂だう上じやう様さう方かた諸しよ彦げん様さう方かたのの御ご貴き人じんおお速すみふふ爰こゝおお是こゝ貴き貫くわん
 今年九十三歳の齡とふふおおりり故ゆゝゆてて恐おそ多おほくくも

敵かたき聞きふふ達たうへへ奉ほうもも是こゝれれ貴き貫くわんの高たか齡ねいとと宥よしまませせれれ家いえ方かたのの製せい薬やく調てう獻けん奉ほうふふはは

勅ちやく許きょとと奉ほうしし是こゝれれ何なにぞぞ幸さい後ごぞぞ手て見けん貫くわん
 聖せい憐れんのの多たふふ溢あふるるのの秘ひ有ありりとと免めんふふ讓じやう回かいてて勿な得えなるるもも受う領りやう持ち任にん莫な太たくく
 天てん恩おんとと裁さいにに業ごうとと進しんにに教きやうとと受うふふとと免めんふふ不ふ月げつ中ちゆうへへもも忠ちゆう孝かうとと盡じんままふふ堪たぬぬががらら

漸しんくく家いえ方かた茶ちや品ひん精せい標ひょうしてして謹じんくく書かき下くだるる而而山さん々ざん病びやうむむ人ひと有ありりとと免めんふふはは

維時 元治元年 甲子 季夏 石田丹波介平勝信謹識

脾肝薬王圓用ひ法

- 一 小児おとまりおとまりてて
- 一 小児おとまりおとまりよりよりみみとと連つふふ一ひと日ひとひ一ひと貼はやや好こむむ品ひんをを貼はひひ行いななせせとと同どう也なり
- 一 小児六才むねむさしよりより十才じふさい迄いた一ひと日ひとひ一ひと貼は二ふた貼は二ふた貼は二ふた貼はとと同どう也なり
- 一 小児十一才じふいちさいよりより十五才じふごさい迄いた一ひと日ひとひ二ふた貼は二ふた貼は二ふた貼は二ふた貼はとと同どう也なり

一十六才より物々大人の一日も二點には度お白濁すく用也

大人小児とも七日の間お下とすく乳食をよく治すお役とすく

色はと薬加とかんば又お下も如然なれば用ゆる年をえ

太い凡用い方の大若くて又お病の程もやはれん平安も常存すのよふ

用申すお下お下仁也主と病も言用申すよ一日お吐物くると二結く

も因也一日お一結くといふと吐物くも用也大病もくも何れも言用

申すせし言言の善なるは只物言と續お用言は言言も言言も言言も

大人 毒養生 大略

一 玄米を煮一汁粟一房子一丈角一丈食一のり豆一かき餅

一 味噌汁一豆腐一麹も一練一だんご一豆餅帯一茶のれ

一 ころももの一から葉一おりも一かちや一其酒一えんや一油を記

此印物一油を記一びまらるお一器強物一これ強物一厚味お

太い此薬系系の薬む中へお禁するおらべ此言利と用申す行ら

病病もい太言もいお多言すれお怒ら病を尋らうい中へおお

薬主系用申す用申すお抱りべ体兼する言必枯じん間く

薬主系の功と知り用いん友思ひかたり各言種と破い用いん人

何りお止のゆえ病い種まへ一二言お一食してもおのこい少程の

いたる言一〇只病病お野一悪む中へのお言まそそ薬の林ふらわら

ごの年一よろしくおほ言

乳母の太言と林言するふた言は只言言以言言林言ん

小兒養育金礎標

可憐小兒疾病非無治之方此乃為不釋用能藥

遂死矣。潛夫論曰養壽之士先疾服藥云云

文大醫の妙劑なりとも相應不相應あり。たゞひ賣茶と

ととも。的中すまば昔婆扁鵲も乃少か乎。大医の業も不應と

まの敷をさすも効なり。小んや常々一事を備病と治するもあま

大凡の志あるを様に入ると文化四丁卯年より同己未と二三ヶ

年の間に四方小治系一試るも日毎の必小効ありと云々あり

是れと漢を伴なす。及覆するも又四年。お後七ヶ年迄系あり

酉年小治して治と不信とを明泉撰りて故小治後効を人々

用ひがたなり。効法の有益と無一記すは書かればはま判ひの方

小治乃西くまで法ありと云々。たゞひは系をとりひなす并、

太七ヶ年迄系中。二四年も腰わけ或は自せけいなり人又

盲とせしむる。由は法病大人積氣。尚飲。ちのる亦、

難病治しる人々。教書の余り。長さを間中七五寸の

た板。難病全快。日中と併ふさす。治くの時、

一週りの内、たすてもあはれあふ。たゞひ一家

かる大治。其業を日中ひは系をとりひなす并、

とも。一命醫。あまのりあへ。日中ひは系をとりひなす

一まのりの中、小治の志ありもあまのり

○ 冊中目録

小兒諸疾脾胃論

六丁才

臨産心得之夏

附乱心 七丁才

生兒心得之夏

八丁才

小兒養育心得之夏 十二丁才

脾疳虫 附乳離

七丁才

肝疳虫 後驚風

十四丁才

心疳虫 言遲

五丁才

肺疳虫 散疳

十五丁才

腎疳虫 背虫

五丁才

脾胃虚諸症

十五丁才

癰積 附大人之久瘡

六丁才

疔痢 附大人之痢病 十七丁才

臍疝撮口 丹毒

六丁才

臍瘡

十六丁才

痘瘡

十六丁才

中暑

十九丁才

翻胃

五丁才

眼病

七丁才

諸病胎毒論 附大人効驗有夏

七丁才

傷寒 附後乱心

七丁才

留飲

七丁才

血閉

七丁才

勞咳

七丁才

崩漏

七丁才

赤白滯下

七丁才

脹滿

七丁才

附録

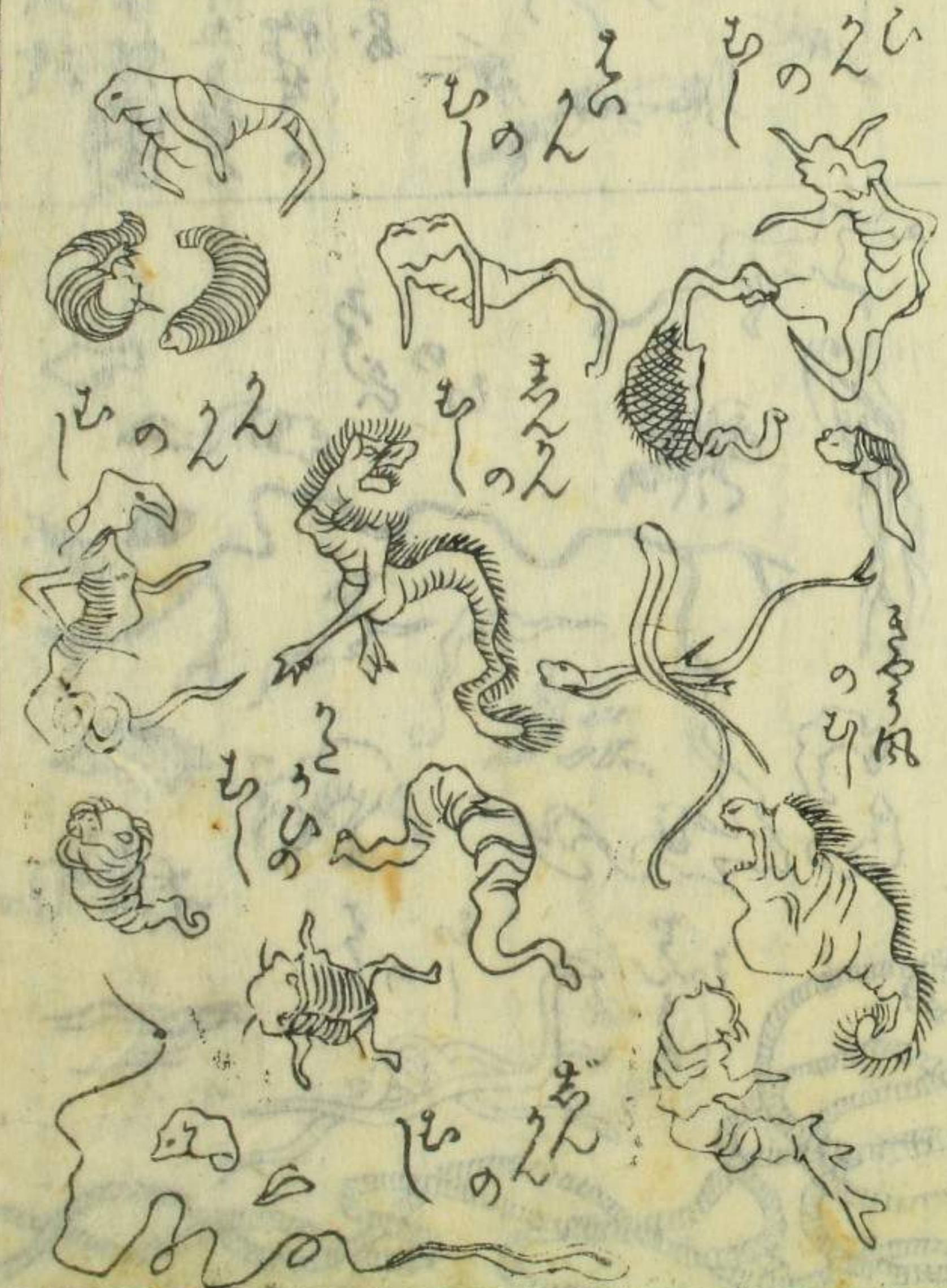
七丁才

鼓脹 附水腫

七丁才

以上

五か人義諸虫の図



友生鈴木氏未訪而云
 公羽今嬰錄猶客貌童
 顏光澤聲音壯大實
 可謂地仙長遺其仙
 客以可額此書与賞
 諷之餘直執筆

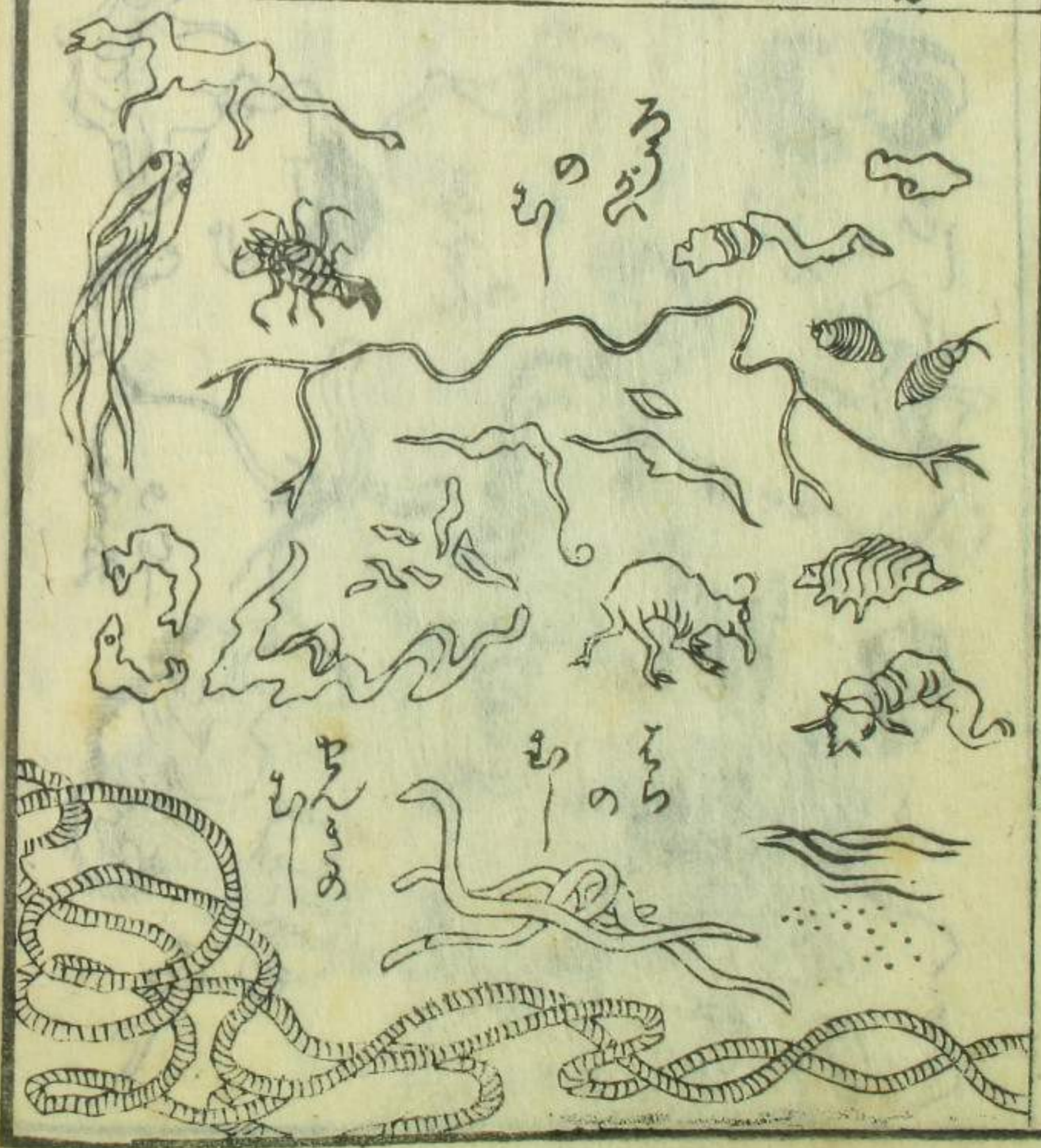
石田鼎貫翁九十三歳肖像

百年壽謹寫



関東院
医学館
四月十九日
おの 作付

虫の毒



蛇の毒は毎度あるやうに知らぬ

毒後乱心と云ふは婦人小出等ありらむ治せざるはなし。

その切能まの形取を月しと云ふ。毒後おろしと云ふは

たまらぬ毒種あり。男女とも毒を治する毒あり。又

治せざる毒あり。叶葉玉毒を治せざる毒あり。別不毒あり。乃

神割あり。毒るふ布する。毒氣を帯びて毒運上り

押へんとす。毒さくおあく。毒気する。死につるうの毒さ

多く。毒もすまぬ。毒の毒く死する。そのおまとも。毒毒

命より死し。毒方も。又。毒を。毒さく。毒さく。毒さく。

毒さく。毒さく。毒さく。毒さく。毒さく。毒さく。毒さく。

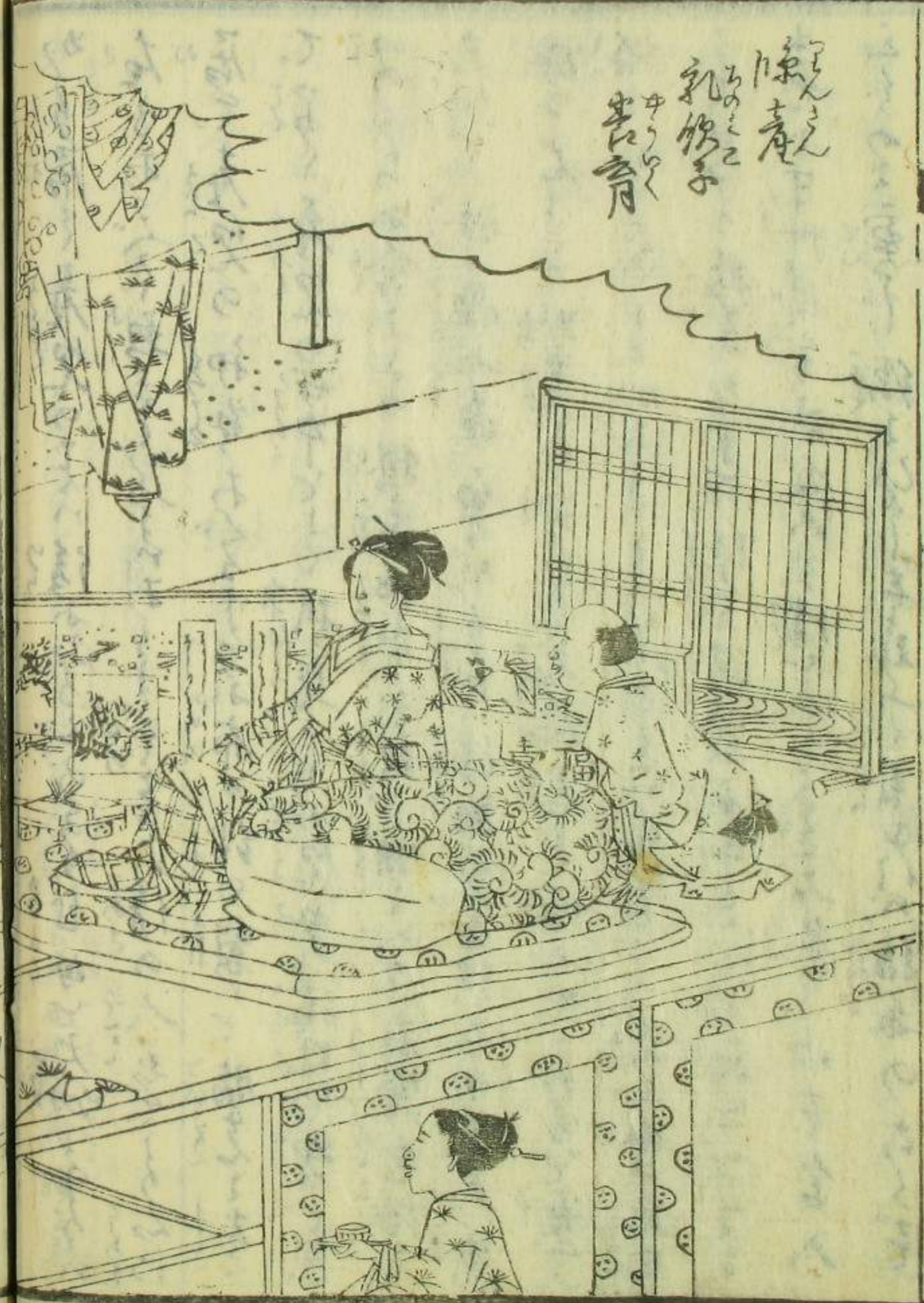
毒さく。毒さく。毒さく。毒さく。毒さく。毒さく。毒さく。

毒さく。毒さく。毒さく。毒さく。毒さく。毒さく。毒さく。

中らちふ。神心と補益は。練腎と潤く。自う。運よと。天。
 と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。
 神初あう。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。
 一家の秘方。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。
 乳心の周ふ。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。
 人す。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。
 人あ。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。
 と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。

○生見心得の夏

出毒の毒。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。
 か。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。
 左も。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。
 居て。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。
 て。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。
 の。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。
 志。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。
 論。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。
 俗。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。
 と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。
 と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。
 と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。と申ん。



夏
陳
乳
中
育
子
育

かふるこふ通じ。又流おるお怒じそのみなる穢濁あり。穢濁とわんそ
 穢濁に引込らぬお怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。
 可なりといふも、お怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。
 何れも、お怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。

生るは思ふ乳とつまらる。二十四時すれど乃まよふ。空はなかり。よまよこ
 産婦の乳は、お怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。
 小児は害れし。又乳を吐く。又穢濁に引込らぬお怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。
 志あり。お怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。
 あり。お怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。

乳母の乳は、お怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。
 人智とあり。天理と遠背の志。穢濁に引込らぬお怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。
 大病の種とあり。お怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。

○小兒養育心得の要

乳母の乳は、お怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。
 小児の乳は、お怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。
 損ドヤキ、お怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。

乳母の飲食は、お怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。
 乳母の味は、お怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。
 乳母の帯は、お怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。又穢濁に引込らぬお怒じ。

子ぐ大便たいべんを解とく。大おほきかると平へい便べんとす。或あるは黒くろく白しろくかるとつら必かならず病やまいあり。胎た毒どくのしん毒どくもあり。用もち心しんとす。身みと用もち口くち。

余あまり大切たいせつとす。胎た毒どくを解とく。胎た毒どくのしん毒どくもあり。用もち心しんとす。身みと用もち口くち。

胎た毒どくのしん毒どくもあり。用もち心しんとす。身みと用もち口くち。

胎た毒どくのしん毒どくもあり。用もち心しんとす。身みと用もち口くち。

胎た毒どくのしん毒どくもあり。用もち心しんとす。身みと用もち口くち。

胎た毒どくのしん毒どくもあり。用もち心しんとす。身みと用もち口くち。

胎た毒どくのしん毒どくもあり。用もち心しんとす。身みと用もち口くち。

胎た毒どくのしん毒どくもあり。用もち心しんとす。身みと用もち口くち。

胎た毒どくのしん毒どくもあり。用もち心しんとす。身みと用もち口くち。

胎た毒どくのしん毒どくもあり。用もち心しんとす。身みと用もち口くち。

小児毒育のむね

この毒育のむねは、
うのむね、経毒、毒の
うのむね、経毒、毒の
うのむね、経毒、毒の
うのむね、経毒、毒の
うのむね、経毒、毒の
うのむね、経毒、毒の
うのむね、経毒、毒の
うのむね、経毒、毒の
うのむね、経毒、毒の
うのむね、経毒、毒の



しんのかん
だんのかん
だんのかん

むねのむね

しんのかん



けいせいのしんじつに... 脾胃の虫

○脾胃の虫

ま小児へ脾胃の虫... 腹痛... 嘔吐... 泄瀉... 疳積... 虫積...

つら... 胃... 腸... 肝... 脾... 腎... 心... 肺... 胆... 膀胱... 大腸... 小腸... 胃... 腸... 肝... 脾... 腎... 心... 肺... 胆... 膀胱... 大腸... 小腸...

右の... 脾胃の虫... 腹痛... 嘔吐... 泄瀉... 疳積... 虫積...

魚の腸の腐... 脾胃の虫... 腹痛... 嘔吐... 泄瀉... 疳積... 虫積...

○脾胃虚諸症。疝あま

生来疝つら土着け炭なく食の便の如く結して

腹の如く入るが如く腹の如く入るが如く入るが如く

腹の如く入るが如く腹の如く入るが如く入るが如く

腹の如く入るが如く腹の如く入るが如く入るが如く

腹の如く入るが如く腹の如く入るが如く入るが如く

腹の如く入るが如く腹の如く入るが如く入るが如く

腹の如く入るが如く腹の如く入るが如く入るが如く

太又強のわらわらつてと入るも多くの脾胃虚

疝のしつとせたりふら後日る後考ふ

○疝積 疝虫も公附 大人の欠疝

去乃疝ら後小塊もつてくを想付来し大人の疝小似

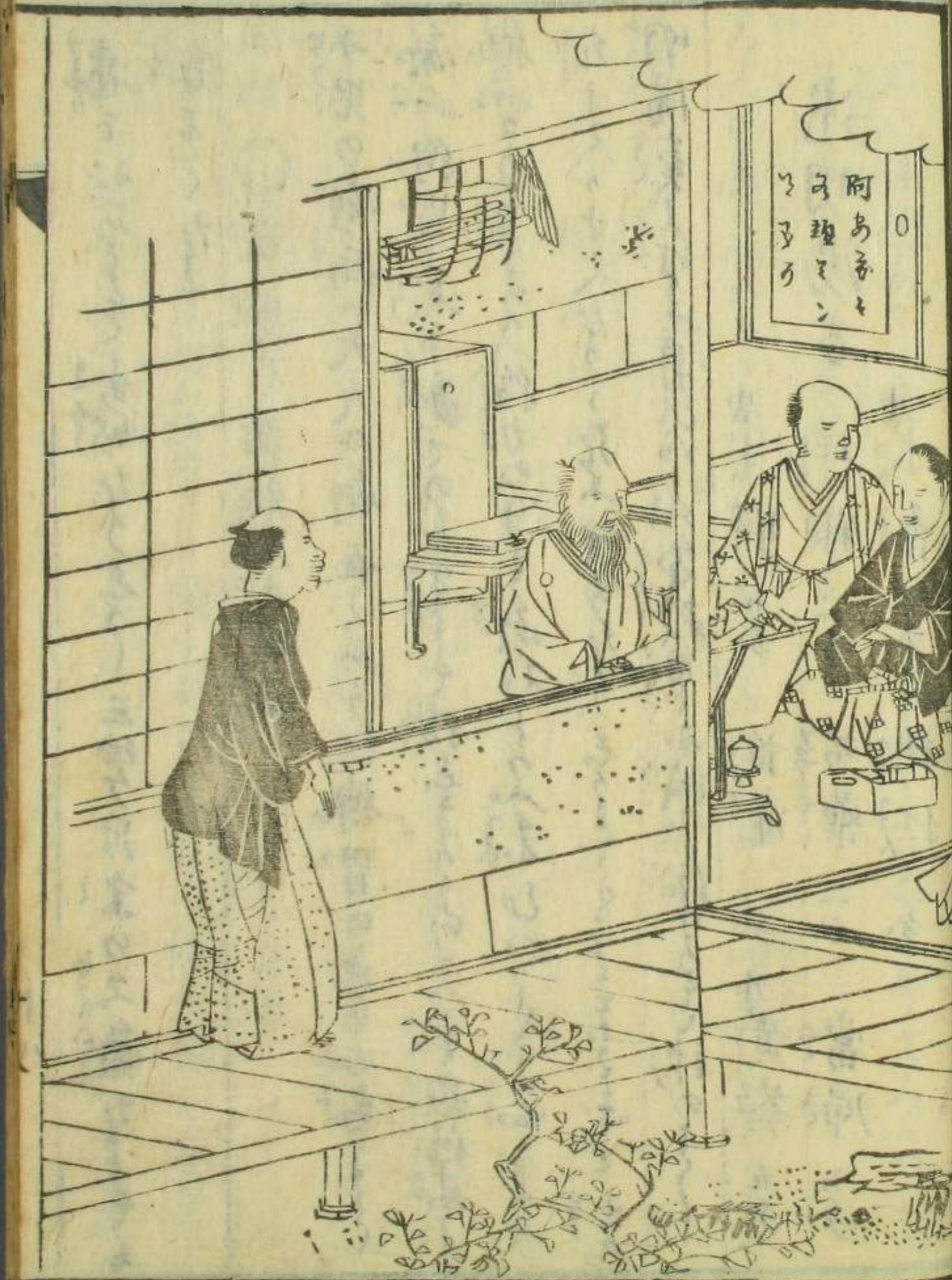
くより倍くしついかりりつて入るが如く小柴胡湯

小柴胡湯方

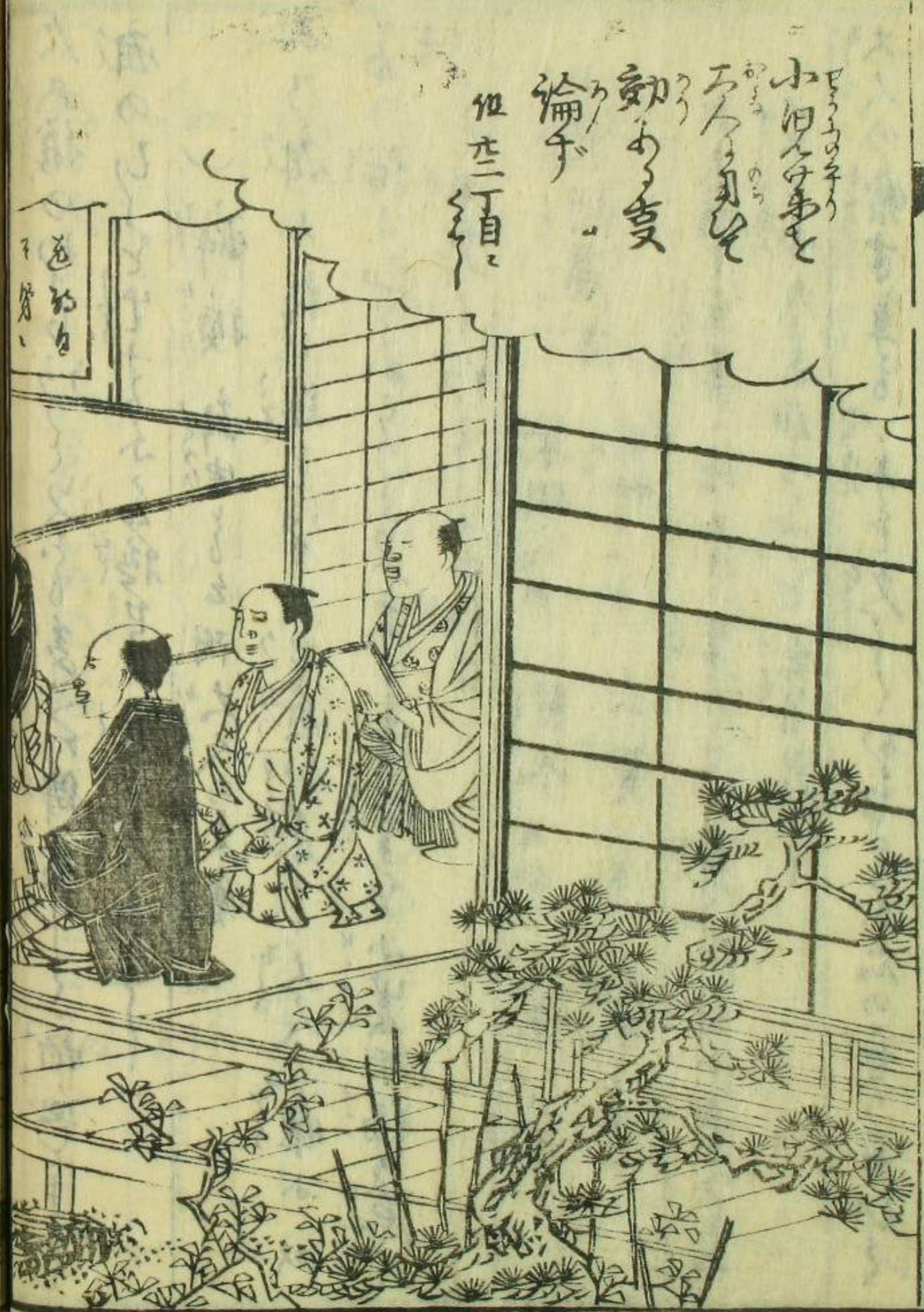
- 柴胡 八分
- 黄芩 五分
- 人参 二分
- 甘草 一分
- 半夏 三分
- 大棗 三分

太六味く生姜一斤入る常のくを一日おす

大人の疝も一年をくわらざるふ太の



阿あそと
の理と
り

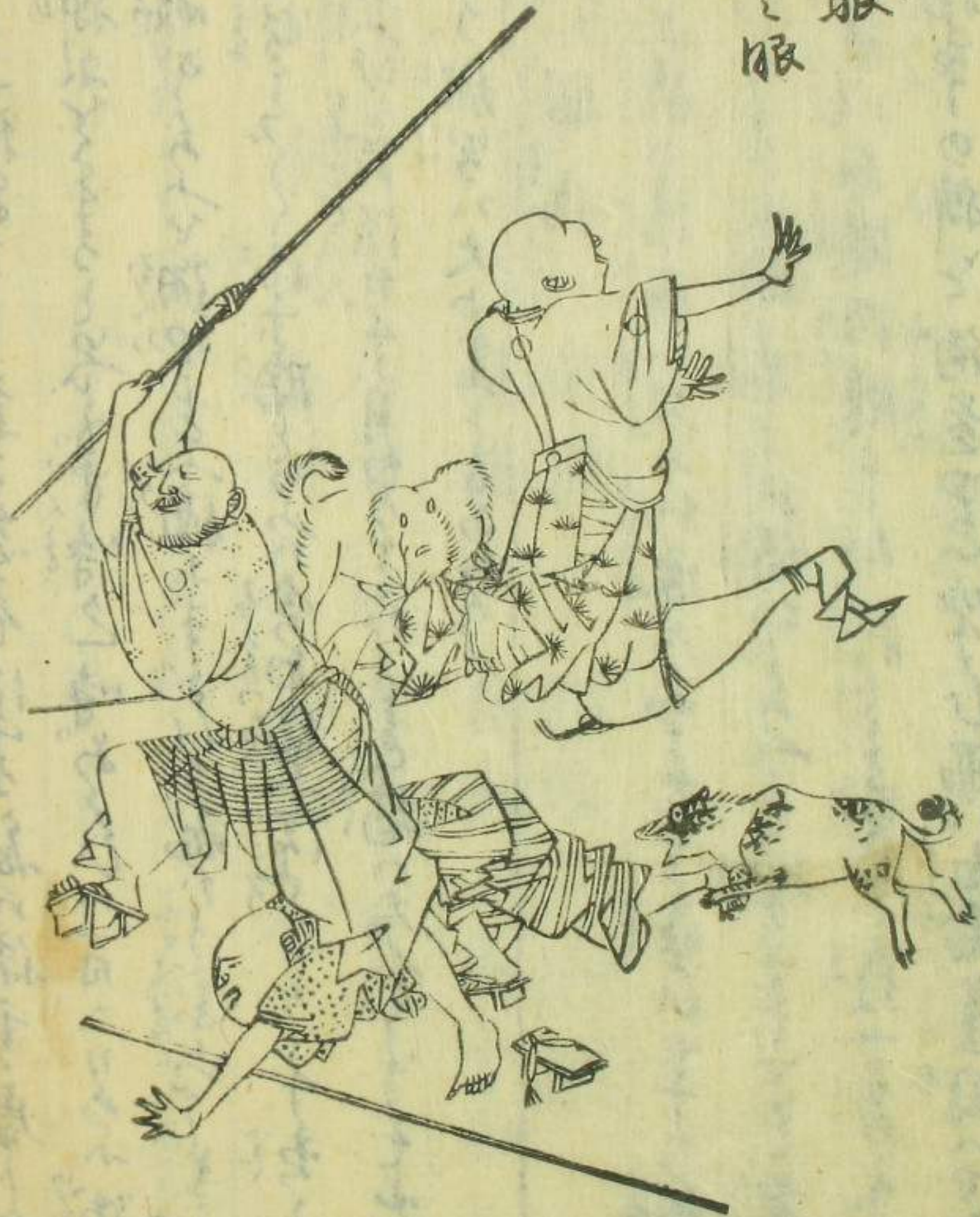


小田の事と
石んふじ
勤あま
倫が
但三丁目

道ゆ
り



雀眼
かき服





人よりあましくふ。了人も治せり。まをまを治す人の病を
 慈んを治す。あましくふ。通解の人。まを治す。まを治す。
 まを治す。加減。通解。まを治す。まを治す。

昔文化十年癸酉仲秋

潜龍陳人昂貫誌



嘉永四年辛亥孟春再彫之期改補
 慶應元年乙丑仲秋再彫之期改補

咳治散

せせり妙薬

たらしらすとせせり妙薬

止痛散

びつろ妙薬

まを治す。まを治す。まを治す。

是妙散

せせりの妙薬

まを治す。まを治す。まを治す。

即妙散

せせりの妙薬

まを治す。まを治す。まを治す。

元養散

ねんべん妙薬

まを治す。まを治す。まを治す。

ねんべん妙薬

まを治す。まを治す。まを治す。

まを治す。まを治す。まを治す。

② 261

禁裏御所

御用

皇都五条建仁寺町西又
御藥師石田丹波介
本國丹波龜山在元川村



出張弘所

江戸大坂

新橋八官町
四ッ橋東北詰

元

京都

鳥丸二条下町

井筒屋徳兵衛

江戸

南傳馬町二丁目

山形屋伊助

土佐

小細町二丁目

嶋屋新助

尾張

島知本町二丁目

浅野屋安右衛門

紀伊

名古屋南館屋町

山東屋鉢右衛門

若狭

若山裏橋筋

久保屋清右衛門

因幡

小濱上竹原村

市木屋健三郎

岩見

鳥取知須海道

木村屋弥左衛門

岩見

出知郡矢上村

津和野

横堀町

早稲田大学図書館

011488575378